

京都教区時報

第174号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨
編集 カトリックきょうと福音センター 住所 京都市中京区壬生淵田町26 Tel 822-7123

京都司教 ライムンド田中健一

クリスマスが近づいて参りました。何んとなく気持ちが悪く、何となく気が重く、何となく不安な感じが、何となく、自分自身の生活を振り返る時、何回この日を祝ったことでありましようか。主の天使は申します「恐れるな。私は民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町であった。この達のために救い主がお生れになった。この方こそ主メシアである、云々」と。

私共はややもすると前例とか、伝統とか言って生き方全体がマンネリ化、世俗化し、又種々のゴミやホコリをかぶってしまっていることがよくあります。しかし、91年のこのクリスマスは今回限りであります。来年のクリスマスに果して元氣であるか不確定であります。



従って自分の心を清め、新たに、本来の精神に戻って、この日を祝わなければならぬと思えます。

キリストを信じるものは恵みによって確信いたします。クリスマスを通して、御父の人類への愛の極みを、不幸と思われる中にも、あっても真の幸福を、苦しみの中にあっても真の喜びを、貧しさの中にあっても真の豊かさを。死に臨みながらも永遠の生命を。

天使の大合唱「天のいと高き処には神に栄光、

クリスマスおめでとうございます 全世界の人々との連帯のうちに

地には善意の人に平和」と。すべてにおいてすべてでいらつしやる神を私達の生活の中心におき、自己中心から神中心に刷新され、神の技、隣人を己の如く愛して行く馬小屋の精神に立ち戻りたいと思えます。

そのような神の俵わせの音ずれ、福音をあまりご存知でなく、周囲のムードによってクリスマス祝う多くの未洗者の日本人もおられます。又東南アジアの仏教国やイスラム教、ヒンズー教の広大な人々はクリスマスについてもご存知でないかも知れません。

しかし失礼な言い方かも知れませんが、主の天使が申したように「私は民全体に与えられる大きな喜びを告げる」と、これは人類へのメッセージである事をキリスト者は信じます。そして今年1991年と言う訳けであります。

現在世界は多民族、多言語、多文化、多宗教、そして歴史、伝統、生活様式を異にしており、唯一の人間性を頂いているものとして相違の一致を志向しております。

これら全世界の人々との連帯のうちに神の成し給うた大いなる不思議(クリスマス)を想い、感謝と賛美の祈りを一層心の底からお捧げいたしましょう。

キリスト者だけの祭りではなく、全人類の祭りとして。



司祭評議会定例会議報告

91年11月7日

審議事項

1. 司祭の休暇制度(サブディカル・イヤー)について

京都南部司祭9月例会の意見を司教に上申することになりました。

主旨 司祭が何年かしてから休暇をとって元氣になれば良い。休みのためにも勉強のためにも使った良い休暇とする。

要点① 何年ごとにするか、何ヶ月間にするか

意見 (1) 5〜6年ごと、(2) 5年、10年など、(3) 7〜10年に1度、1年位、(4) 転任が10年位になつていから、その頃とりその後新任地に行く。(5) 25周年に

要点② 勉強するか、休みをとるか。

意見 (1) 勉強したい人には、どんな勉強をどこでできるか情報がほしい。(2) 勉強はしたくないが休みたい人もあるから休みがとれるようにする。(3) 国内の養成コースも、教えてやろう、という意図の見えるものや、そのためのゲームなどは考えものである。

要点③ 国内か、国外か。

意見 (1) 国内の場合、各修道会・各宣教会なら自分たちの勉強の

コースもあるが、教区司祭には制度がないので、宿泊できるところ、勉強できるところなど司教団で考えてほしい。(2) 海外の場合、つてのない人は行けないので司教団で面倒をみてほしい。**要望** (1) 安心して休暇がとれるよう、交代の人を決める制度を作

ってほしい。(2) 司祭と信徒の信頼の中で、信徒も早く認めてほしい。(3) 強いて研修にやらないでほしい。(4) 前もって本人の希望、計画を聞いておく。2〜3年前から準備しないと有意義な休暇をとれない。

その他 (1) 新教会法では年に1ヶ月(連続してでも、区分してでも)の休暇をとることができ

(2) 若い間に教区に必要なことを勉強してほしい。勉強後、教区で受け皿があると良い。(3) 教区がある人に必要な勉強をするよう使命することと、休暇制度は別のことである。(4) 25周年は恵みであり、感謝の時としたい。

2. 来年の司祭・修道者懇親会(1月4日)について

懇親会の担当はマリリスト会

3. 来年の聖香油ミサ(3月26日)について

9月の例会では、4月2日としましたが、侍者の合宿を予定していましたが、世話をする神学生が春休みの期間に変更して3月26日にします。10時から講演会を予定していますが、家庭の主婦の

宣教司牧評議会報告

91年6月〜10月まで

6月9日10日 司牧評

現状調査に基き、①司祭小教区職員 ②小教区と信徒 ③建物 ④信徒会の活動 ⑤社会との関わりと諸活動グループ等に問題を整理する。

その結果をふまえて、アンケート調査のための設問を作る。

7月28日 常任委員会

アンケート調査の目的は何か。設問について藤村、長谷川、山下氏、更に西野師の4案の中から、西野師のものたたき台に、設問作りをする。その段階で35項目。

9月7日8日 臨時司牧評

先の常任委員会案をたたき台に検討。大切な点で落ちている点も考慮しつつ、項目が多すぎるので出来るだけ簡略にする事を心がける。調査の大綱も決定。最終案は常任委員会に委ねる。

話を聞くことになりました。話をして下さる方については、ヒル師オヘール師に人選をお願いしました。

4. 司祭、修道士研修会について

来年は、8月24日〜26日に予定しています。実行委員として委員長は村上(眞)師、委員はナイス公聴会の準備委員にお願いすることにしました。委員の中には信徒、修道者も選ばれます。

9月16日 拡大常任委員会

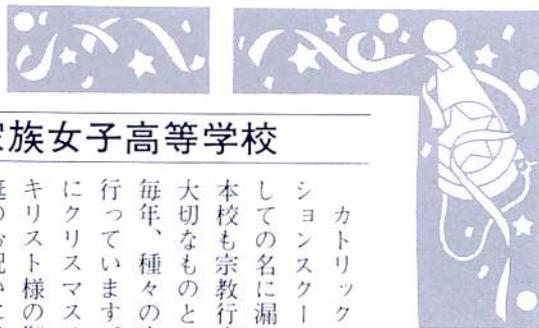
先の評議会の意見を入れて、アンケートの最終案を作成、送附。尚このアンケートは、10月6日から27日まで実施を依頼し10月31日に各地区の司牧評議員あてに必着するよう依頼。(ちなみにすでに統計結果が各地区で出ている)

10月18日 常任委員会

アンケートの集計(データの出し方。集計方法について検討。12月7日8日、定例会議において、アンケート結果を検討し、これを司教に提出する計画である。これを資料に、よりよい福音宣教共同体への歩みのための、方針や方向が見えてくるだろう。

その外、宣教司牧評議会の在り方について、再検討しなければならぬ時期に来ているので、これが重要な議題になっている。

クリスマス



★聖家族女子高等学校

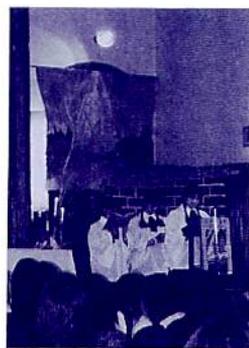
カトリックミッシェンスクールとしての名に漏れず、本校も宗教行事は大切なものとして、毎年、種々の事を行って行きます。特にクリスマスは、キリスト様の御降誕のお祝いに最もふさわしい行事として、毎年、2学期終業式の前日に全校生徒及び全職員が参加して、ミサ聖祭によってお祝いします。やり方としては、近くの園部カトリック教会に全員、直接に集合して、主任神父様に司式していただいております。するわけでありませんが、生徒の主体性を大切にするために、司会、侍者、朗読、伴奏などはすべて生徒が行うこと

になっていきます。小規模校の本校では大きなアクション行事はいたしません。ミサ聖祭が素晴らしいものになるために、前日には司式司祭なしですが、ミサリハーサルを一通り行いますから、あたかもクリスマスミサを2回行ってお祝いするかの如き感じもいたします。当日歌われる歌が最高のものであるように、リハーサルの時に全校生徒が相当の練習をいたします。

待降節に入りますと、朝のSHR前に流れる聖歌の内容も、クリスマス曲が日を変えて流れるようになり、待降節気分を毎日過ごすこととなります。(年により、クリスマスミサ後、ピアノ部の発表、吹奏楽部の演奏の行われた年もあります。)

ミサ聖祭の中で、奉献の時に行われる全員の献金は、その年その年に必要と考えられるところに送金されますが、昨年は湾岸戦争による中東難民の救済援助として送金いたしました。

共同祈願では全校生徒の代表が各学年から1名ずつ、それぞれの意向でお祈りし、先生方の中からも毎年2人ずつお祈りされます。



園部教会にて

先生方の共同祈願の時は、生徒たちの事を考えて下さっている内容が含まれている場合が多いため、生徒たちが、先生方から本当に愛され、大切にされているという安心感と信頼感を抱く時でもあります。

目立たないささやかなお祝いではありますが、ミサ聖祭という最高のお祈りに全員が参加することにより、未信徒でありましても、神様からの祝福は確実であると信じて、毎年、このようにして、クリスマスのお祝いをしているわけです。

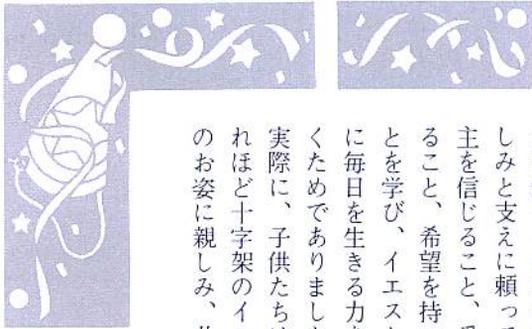
聖家族女子高等学校
(文責 宗教科 シスター 河野)



★暁星女子高等学校
12月24日(火) タブロ、キャンドルサービス、クラスパーティー
(テーマ 教会の方、市民の方とクリスマスとのメッセージを分かちあう) 初めての試みですが、パーティー、タブロの後、市内・教会に行列をします。

★日星高等学校
12月13～18日 クリスマス週間話し、聖歌の準備し、17日パントタイムと講話、18日ミサクラスごとに飾りつけをする。全校の準備は全教員に役割があり、生徒の役割と共に働く。

★ノートルダム小学校
12月19日(木) 低学年3年生の劇を中心に、高学年スライド、5年生のタブロ
低・高年生とも劇、タブロの終りに待降節中の実行と献金を奉獻する。その他保護者向け職員向けのミサとパーティーを行う。



特集

学校と

★聖マリア養護学校

1980年、開校後5年を経て独立校舎の完成を見た聖マリア養護学校は、宗教的な環境づくりに留意し、特に多目的に使用されるホールの正面に大きな十字架をかかげました。それは身体に様々な障害を持つ児童達が日々の不自由さや、辛さをイエズスが共に荷負って下さり、共に耐えて下さっていることを知り、イエスの慈しみと支えに頼って、主を信じること、愛すること、希望を持つことを学び、イエスと共に毎日生きる力を頂くためでありました。実際に、子供たちはどれほど十字架のイエスのお姿に親しみ、共感

を共にし、励まされたことでしよう。

「ボクたちは寝るときには、ヘルメットを取るけれど、イエスさまはいつとげの冠をとるの?」、「イエス様は歩けないから可哀そう」などなど……子供たちは自分の不自由さ、痛み、辛さを通して、他者の苦しみを感じとりいたわる優しさを素直に表わしていききました。これこそ十字架から溢れるイエスの御生命そのものの流入でありましょう。

この様にして本校のクリスマスマはいつしか「十字架上のキリストの地上への誕生」という内的プロットを持つようになりました。

毎年11月になりますと「クリスマス・カンタータ」の練習に入ります。これはノートルダム女子大学の教授で、この学校の特殊学級時代に音楽指導をして下さっていたシスター・ヘレンが帰国に際して贈って下さったものでロバート・ゲラハム作曲の子供の声の間のクリスマス・カンタータであります。ルカ福音書の降誕の物語が教会音楽の形式をとって構成されたものですばらしい作品です。本校では以来10年余に亘って願い継いできました。10曲からなる歌曲の展開



は福音書の記述のままに運ばれ、ヨゼフとマリアの試練、困難な旅路、静かな夜の情景、星の出現、イエスの誕生、天使の賛歌、礼拝への招き、平和と喜びの絶唱へと私共を導いていきます。様々な障害を持った子供たちが一杯に「このお方こそ救い主、イエス、来りて拝め、み栄えあれや」と歌う部分は正に世界に向けての福音の呼びかけであり、聞く者に深い感動を与えています。このカンタータをもって子供も教師も「十字架のイエスの誕生」をこれからも歌い続けていく事でしょう。(シスター・セシリア岡田)

★ノートルダム女学院中・高等学校

12月21日(土) 24日(火) 21日はキャンドルサービスとタブロ 24日キヤロリング、クリスマスミサPM 8:00

生徒会の主催で、中・高校生別に全校生徒が参加します。24日は生徒、保護者、卒業生、御近所の方その他、どなたでも参加できます。主催はノートルダム女学院とノートルダム教育修道会鹿ヶ谷修道院

★聖母学院小学校

12月19日(木) 22日(日) 19日は生徒対象、22日は保護者対象、シアンス(合唱団と宗教委員による聖劇、約1時間程のもの)

待降節中の実践を聖劇にささげ全校、生徒の参加した聖劇にしている。よりよく聖劇に各々があずかれるように、低学年2回に分けてやっている。

★聖母学院中・高等学校

12月21日(土) 御言葉の祭儀とキヤンドルサービス

★洛星中・高等学校

12月24日(火) PM 5時30分
クリスマススタブロー

★海星中・高等学校

「学校教育の中でクリスマス行事をどのように位置づけているか」

カトリック学校でクリスマスを教育的にどのように生かすかということは、なおざりにできない大きな関心事である。

その理由は、クリスマスがキリスト教にとって非常に大切な祭事であるからだけではない。クリスマスが宗教性の濃いものでありながら、日本人にとっては逆に宗教性の薄いものとして感受されているからである。それはクリスマス行事を学校の中で行うとき、他の宗教的行事と違って、意外な程抵抗を受けないことである。

職員の圧倒的多数は非信者であり、経営者側の宗教的必要性を認めてはいるものの、積極的協力を望む方が無理であろう。だから宗教的行事は非信者の先生方に遠慮



しながらすることになる。ところがクリスマスは別である。すでにクリスマスは日本文化の中に溶け込んだようである。日本人にとってそれは異教的・異文化的な異質なものはなくなり、日本の社会・文化に同化したといつてよい。ただその宗教性は換骨奪胎されてはいるが。

このような事情を考慮するならば、クリスマスは宗教的教育の好機である。生徒も家庭でクリスマスを祝う感覚で、この行事に参加できる。キリスト教的の人生観・福音的価値感を示す絶好のチャンス。

以上のことから学校教育の中でクリスマス行事が占める位置は、その宗教教育という点から観て、最も重要なものと言える。次に、このクリスマス行事の重

要性を真に生かしているかと考えてみると、まだしもの感がする。学校経営者側と信者先生達の一致協力、全校的な取り組みの姿勢、宗教的価値に対するコンセンサスの不足など、再考を要することが多い。

さらに、父母や地域社会に結びついた活動に発展しないと、学校内に限られた閉鎖的なものとなつて萎縮していきかねない。父母や

社会の学校に対する要望「学力をつけ、良い大学に入れる」という風潮から自由になり、真の人間教育・福音に生きる人間形成を目指すためにも、このクリスマス行事を大切にしていきたい。



★セントヨゼフ女子学園中・高等学校

12月15日(日) クリスマスページェント。高3全員によるキャンドルサービスとタブロ

多くの卒業生および近隣小教区の信者の皆さんにクリスマス心の心の準備をするのにもよいとご意見、ご感想を頂いています。生徒と教師による手づくりのページェントです。

★メリノール女子学院中・高等学校

12月21日(土) キャンドルサービス、クリスマスミサ

特徴といわれることではありませんが待降節中、生徒に善行を積極的に実行するよう指導している。

★聖母の家学園

12月19日(水) 全校一斉行事として行い、クリスマスソングを歌ったり、プレゼント渡しをしたりします。

学校教育の中でクリスマス行事をどのように位置づけているかという質問に答えていただきました。ご協力ありがとうございました。



京都南部

第9回南信協バザーを終えて



秋空の晴れわたる10月20日(日)、南信協主催のバザーが河原町教会の玄関広場と地下とで行われました。地下には各小教区の婦人部が作ったおはぎ、おでん、かやく御飯、松茸御飯などが並び、高校生会も喫茶店を開くなど、地下室は満杯となりました。一方広場では河原町教会の壮年部が、いかやきのにおい作戦で道行く人を誘い込み、クリスマスカード、茶だんご、パウンドケーキ、雑貨、手芸品もよく売れ、約3時間後には品切れとなるほどでした。収益金は575、663円を2等分して「老人憩いの家」基金と島原市内にある島

原カトリック教会へ送金しました。

なお、当日は古屋司教様の遺品コーナーとして特別に設け、値段も買う人に決めてもらい、101、824円の収益がありました。教区時報の紙面をおかりして報告させていただきます。みなさま、ご協力ありがとうございました。

このバザーも9回を迎え、今までいろいろな所へ寄付させていたいただきました。また、2年前より南信協が主催となって実行委員会をつくり壮年部、婦人部、青年部、高校生会が一つになって、親睦をはかりながら協力しあつて行っています。ここに大きな意義があると思います。これからも力をあわせ、いつまでも続けていけるよう皆で努力し、祈りたいと思います。(文責 柴田)

——主日のミサには60名位の信徒があずかっていたが、この度の火山噴火によって避難のために離散を強いられ、今は10名程の信者しか教会に来ていない状態である。教会の維持、信徒への連絡などのため、また噴火が治まってこの教会に帰ってきた時に、信徒の方々の少しでも生活の足しになればと思っています。(島原カトリック教会、紙崎主任司祭の談)



ミサの中にある 祈りから

拝領の祈り

聖体を頂いた時

アフリカで飢餓で死んでいく人々の顔が浮かび……

あそこに聖体を焼く粉ありますか

聖体はパンなのです

聖体は生きる糧なのです

その事を思った時

主が食物となつて下さった事の

意味が深く感じられ

聖体を頂く事の感動が

涙の様になつてにじみ出てくる

その事を黙想した時

飢餓難民の聖体拝領が想われ

飢餓難民の拝領の感動が観われ

彼等の中に働く力がおもわれ

何故主がパンとなられたか

解る様な気がする

その事を黙想した時

パンの奇跡が心に写り

ブドウ酒の奇跡が心に写る

その事を黙想していると

奇跡は憐れみにより行われ

聖体の制定は愛の極みの中で

行われた事が想起される

聖体を頂く時

奉納の祈り

飢餓難民の痛みが食べられ
飢餓難民の感動も頂きます。
ミサでの祈りです。

ここに供えるパンはありません

大地は恵みを与えません

労働する事が出来ません

いのちの糧がありません

アフリカを思い

ネグロスを思う

心涙あふれ

目涙にじむ

悟られぬ様に

声を整え 私祈る

ここに供えるパンはあなたから

大地の恵み

労働のみのり

私達の生命の糧となるものです

彼にパンを

もしここに一握の粉しかないなら

私はどちらのパンを焼くだろう

飢える子に一つのパンを?

それとも数枚のホスチアを?

あなたどちらにしますか?

私は一つのパンを焼きます

ソフトボール大会!!

「ソフトボールで、身体を動かしたいノまた、青年センターのアピールと青年の集いのようなことをしないか?という呼びかけ」のために、10月13日(日)に滋賀県草津市にある光泉中学・高等学校において、ソフトボール大会を行う予定でした。

「ソフトボールと雨は友達ノ」と思えるくらい、よく雨が降るのですが、やっぱり当日も小雨。しかし、ソフトボールがしたい、という思いが強く大きく、小雨の降る中ソフトボールを始めました。が、やみそうにもない雨に負けて、急きよ体育館に移ることになり、ソフトボール大会はおいでバレーボールをすることになってしまいました。

あんてな (((((()))

地元の滋賀を始め、奈良・三重・京都北部・南部だけでなく、JOC(カトリック青年労働者連盟)からのチーム、学生連盟からの個人参加……。京都教区各地から8チーム、100人くらいカナ?の参加があり、中には「久しぶり、元気だっ

た?。」という声も。中学生中心のチームあり、最近運動不足でという人達、動きたくてウズウズしている人達と、様々な人達での試合でしたが、優勝はJOCチーム。やる前から「力には少々自信アリノ」といっていただけに、スゴカッタ。昼頃から小さい子供づれの家族も加わり、コート外では、わきあいあい?にぎやかなこと。「どこからこんなに若い人たちがわいてきたの?」と言われるくらい、終了後の体育館の広いことノ、広いことノ。

ソフトボールだけじゃなくて、他の時でもこれだけ……これ以上の人達と出会えたらいいのにネ。

—青年センター 運営資金のために— カレンダー 発売中デス!

価格 700えん Fr柳本昭による
サイズ 52×25cm きり絵
ミシン目入 カレンダー。
問い合わせ
青年センターまで ☎075-822-6246

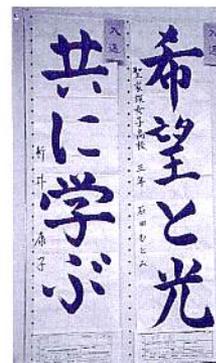
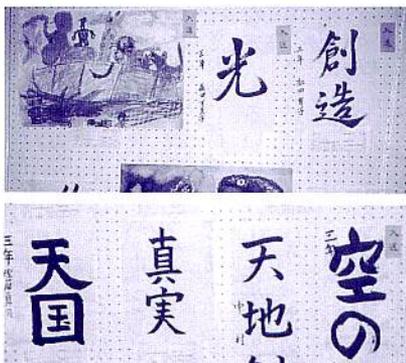
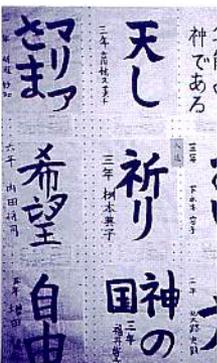
みことば 書道・絵画展

'91年みことば書道・絵画展に今年もたくさんの作品が届きました。ふすま紙に書かれた大型作品から聖田中学、ノートルダム小学校、聖家族女子高校、希望の家など子供たちの力強い作品まで本当にすばらしい作品ばかりでした。来年もどうぞ気軽に出品してください。



(成人の部)

書道 43点
絵画 7点



(子供の部)

書道 205点
絵画 22点

お知らせ

教区スケジュール

12月

- 1日(日) 四日市教会バザー
結婚相談室開設
PM 1:30~3:00
- 7~8日 宣教司牧評議会
- 8日(日) 子羊会クリスマスパーティー(大津教会)
- 9~10日 司教ナイス学習会
- 11~14日 司教総会
- 12日 部落問題委員会学習会
- 14~15日 伏見教会黙想会
- 24日 クリスマス市民の集い(河原町教会)

1月

- 4日 司祭修道者懇親会
- 13日 家庭委員会
- 15日 青年センター3周年
- 30日 司祭評議会

▼祈りの一日を共に

日時 1992年1月15日(水)

AM 9時30分~PM 4時30分

場所 聖ドミニコ女子修道院

講師 米田彰男師(ドミニコ会司祭)

対象者 18歳以上の未婚の女性

参加費 500円(昼食代含)

申込み 1992年1月8日(水)

申込み 葉書または電話で

〒602 京都市上京区河原町今出川梶

井町48 聖ドミニコ女子修道院

☎075(231)2017 Sr田井かSr鈴木

▼南京大虐殺54周年

真相を明らかにする全国集会

日時 12月14日(土)PM 6時~9時

映画上映・証言

12月15日(日)AM 10時~5時

講演・シンポジウム

場所 京都アバンティホール(両日とも)

参加費 1,500円(2日通し)

▼14日のみ(700円)▼15日のみ(1,000円)

主催 南京大虐殺の真相を明らかにする全国連絡会

▼福音センターも賛同しています

お願い

「カトリックきょうと福音センター」は呼称こそ変わりましたが、ここ15年~20年、公會議の精神に沿って神の民がともに刷新されるよう努力してきました。これを高く評価いたします。

私共の眼も少しずつ福音的に開かれていくように感じます。

足許を固めることが大切ですので、ご無理を申しますが、前記センターへの経済的ご支援もよろしくお願いいたします。

1991年 12月

京都司教 田中健一

▼黙想会のご案内

日時 12月15日(日)PM 1時~5時

テーマ 福音と祈り

講師 アルフォンソ師

対象 青年男性信徒(高3以上)

申込み先

〒602 京都市北区北野上白梅町5

ヴィアートル修道会ラバディ師まで

☎075(463)0567



待という言葉を眺めし見れば、いと寺の会意文字。イはおこなう又は道をさす。寺は寸(手)と(足)を動かすという説と、止(とどまる)と言う説がある。

それ故、待は手足を動かしてもなす。あるいは道路上に足を止める。さて待降節の待は?。主の到来を待つ。

学校とクリスマスと題して特集を組んでみた。学校行事の中で、国民的行事となっているクリスマスは誰にでも受け入れやすいと書かれていた。教会にも12月24日には町行く人々がたちよリミサに参加する。この一日に私たちは何を望むのだろうか。

(N)

クリスマス
おめでとう
ございます。

今年も一年皆様には、お世話になりました。来年もどうぞよろしくお願い致します。

時報編集部